

一面が菜の花盛りの花田村を偲んで

江戸時代には遠里小野から五箇荘にかけてアブラナの栽培が盛んで、菜の花の開花期には一面みごとな花畑になり、一帯を花田と呼ぶようになりました。「川ひとすじ 菜たね十里の 宵月夜 母が生まれし 国美しむ」と、与謝野晶子がふるさとの大和川と菜の花畑を詠んでいます。

スタート駅

約 90 分

ゴール駅

御堂筋線北花田駅④号出口

御堂筋線北花田駅

1 五箇荘・花田

五箇荘の名前は15世紀の記録に現れ、宝永元年(1704)の大和川付け替えまでは我孫子や杉本、庭井までを含む広大な地域でした。室町時代に五箇荘の郷氏として北花田一帯を支配した澤池氏は堺港からの日明貿易で利益を得たとされています。その頃からアブラナの栽培が盛んになり、菜の花が咲く畑を花田と呼び、花田口、花田口筋という名称も生まれました。

3 長尾街道

『日本書紀』の推古天皇21年(613)に「難波より京(飛鳥)に至る大道を置く」と書かれた日本最古の国道が難波大道と竹内街道です。長尾街道は竹内街道に並行して整備され、2つの街道は葛城市の長尾神社で合流し、古代から近年まで堺と河内や奈良を結ぶ重要な交通の道として栄えました。



4 阿坂墓地

阿坂墓地は旧五箇荘村と松原市の我堂村の共有墓地です。近くに阿弥陀寺があったと伝えられ、墓地内に阿弥陀如来坐像が祀られて「あさかの阿弥陀さん」として信仰を集めています。墓地内にある「須弥象碑」は、下部の岩が人間世界(南瞻部州)を、アンテナのような上部が須弥山を現し、仏教の宇宙観を表現しており、正覚寺の門弟が明治26年(1893)に制作した貴重なものです。



2 五箇荘の寺社

古代からの歴史をもつ五箇荘地域には由緒ある古い寺社がいくつも存在します。日本最古の国道のひとつである長尾街道にも近く、古代から多くの人々が交流した五箇荘郷に思いを馳せて訪ねてみましょう。

■華表神社

北花田郷の総社で、神社に伝わる縁起には神功皇后や空海、後醍醐天皇などが諸神を祀ったという伝承が記されているようで、古い由緒がうかがえます。



■心念寺

所蔵されている仏涅槃図を見ると室町時代まで遡る画風で、古い歴史がわかります。五箇荘村西船堂の人々の菩提寺だったといわれています。



■愛染院

愛染院はもと池浦観音寺と呼ばれ、奈良時代に聖武天皇の勅命で行基が開創したと伝えられています。



■須牟地曾根神社

南花田村の産土神で、神功皇后6年(206)創始という伝承があります。勝手大明神として信仰を集めました。



■地藏寺

融通念仏宗中興の祖・法明上人が元享3年(1323)に地藏菩薩を安置したのがはじまりとされています。本堂前の大きな地藏尊は弘化3年(1846)に造られました。



■曼陀羅寺

創建は不祥ですが、このあたりの旧家・三好家の古文書によると寛文6年(1666)にはすでに奥村の菩提寺として護持されていました。平成元年(1989)に本堂が新築されています。



■白王寺跡・吉武大明神

平安時代中期、白河法皇が高野山参詣の途中で滞在したときに、空海の祈祷で湧き出た井戸があると聞いて白王寺という寺号を与えたと伝えられています。いまは寺内にあったとされる吉武大明神と八将神社西船堂の祠が残っています。



■蓮光寺

創建は不祥ですが、大坂夏の陣で堂宇が焼失したという伝承があるほか、寛政6年(1794)に再建されたという記録があります。



■正覚寺

創始は不祥ですが、本尊の阿弥陀如来立像は天和3年(1683)に本願寺より認可されたものです。現在の本堂は平成元年(1989)に再建されました。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2023年2月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行